

# ピアからのコメントが学生のレポートに与える影響

—コメントの適切性に着目して—

○白石藍子・鈴木宏昭

(青山学院大学大学院文学研究科) (青山学院大学文学部)

【目的】「論証型のレポートを書く」という活動は、大学初年次生にとって、高校までの作文などとの違いから戸惑うポイントである。本研究では、学生同士がお互いのレポートにコメントしあうピア・レビュー活動を取り入れることにより、初年次生が論証型レポートの形式に沿った説得力のあるレポートを書けるようになるか、その効果をToulmin(1958)の論証モデルに基づいて作成した評価基準を用いて検討する。

ピア・レビュー活動を通して協調的に学ぶことが、大学レベルの授業において有益な活動であることは、鈴木ら(2006)や大井ら(2006)でも既に明らかにされている。本研究では特に、ライティングにおいてプロフェッショナルではない学生のコメントは信頼できるのか、学生が付するコメントの適切性とレポート点数の伸びの関係性に着目する。

【方法】教育学科初年次生 20 名を対象に、「駅から大学までの一番良い道なり」について書くという課題でピア・レビュー活動を行なった。この課題は、専門知識を必要としないため、初年次生の「書く力」そのものを測ることに適した課題であり、また「良い道なり」の定義が曖昧であるため、どの道が良いか、単純に主張するだけでなく、「良い」という基準を明確にし、さらにその妥当性を述べる必要があるという特徴を持っている(鈴木ほか, 2008)。

レポートの作成は次回授業までの課題とし、ピア・レビュー活動は 90 分の授業時間内に、1 人あたり 5~6 人のレポートに対して、指定された用紙にコメントするという形式で行なった。

【分析】Toulmin の論証モデルに基づいて作成した評価基準(主張、データ、基準、基準根拠、反証・限定、比較)を用いて 2 名の採点者が採点を行ない、1 回目と 2 回目のレポートの点数の伸びを確認した。さらに、コメントについても、同様の枠組みで分類し、それらが修正レポートに与えた影響について確認した。

【結果と考察】活動前後のレポートを比較したところ、平均点は 13.05 から 16.30 へと 3.25 ポイン

トの上昇が見られ、また全ての評価項目において得点の上昇が見られた(表 1)。次に、コメントの適切度について分類したところ、全 485 コメント中 366 コメント(76%)が適切なコメントであり、94 コメント(19%)が部分的には適切なコメント、25 コメント(5%)が不適切なコメントであった。

表 1 項目別得点

	主張	データ	基準	基準根拠	反証限定	比較	合計
1 回目	3.00	2.40	2.90	1.65	1.50	1.60	13.05
2 回目	3.55	2.95	3.30	2.05	1.90	2.55	16.30

さらに、学生が指摘すべき点を指摘できているか、確認したところ、全体コメントと同様に、76%が適切なコメントであった。また、適切なコメントを得られている場合、平均 44%の割合で得点上昇しているのに対し、適切なコメントがない場合は 18%の割合での得点上昇に留まった(図 1、図 2)。

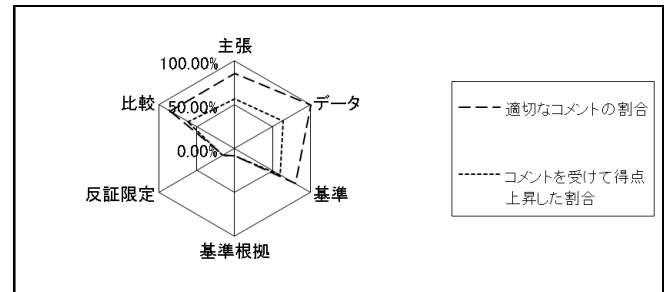


図 1 コメントと得点上昇の関係(1)

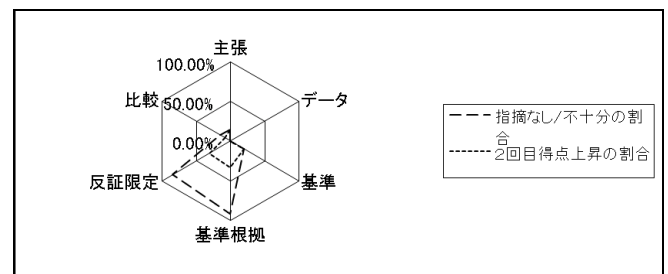


図 2 コメントと得点上昇の関係(2)

【まとめと今後の課題】ピア・レビュー活動において、学生は高い割合で適切なコメントを行うことができ、また、そのコメントを受け取ることにより、学生のレポートがある程度、論証型の形式に沿った文章に変化することが分かった。今後の研究では、指摘されにくい項目を伸ばすためにはどのような介入が可能か、検討する予定である。